

一般社団法人日本看護学教育学会 2022 年度評議員会 議事録

日 時：2022 年 6 月 19 日（日）14：00～15：45

場 所：AP 浜松町 A ルーム（〒105 - 0011 東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル B 館地下 1F）

総評議員数：120 名

出席評議員数：104 名（会場出席 16 名・WEB 会議システムによる出席 48 名 委任状出席 41 名）

出席理事：大島弓子理事長、安酸史子副理事長、小山田恭子理事、北素子理事、小松万喜子理事、
小山眞理子理事、白水眞理子理事、西村ユミ理事

（以下、WEB 会議システムによる出席理事）

嘉手苺英子理事、本庄恵子理事、正木治恵理事（以上 11 名）

出席監事：田村やよひ監事

（以下、WEB 会議システムによる出席監事）

秋元典子監事

議長：大島弓子理事長

議事録作成者：大島弓子理事長

議事録署名人：林千冬 評議員（現地出席）

江本リナ 評議員（WEB 会議システムによる出席）

（五十音順）

※ 本法人定款規定に基づき、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員を「評議員」と表記し、同法上の社員総会を「評議員会」と表記し、また同法上の代表理事を「理事長」と表記するものとする。）

I. 開会

白水眞理子理事より、14:00 時点での出席者は会場・WEB 会議システムによる出席 58 名、委任状 42 名、計 100 名であり総評議員 120 名の過半数である 61 名以上の出席があるため、定款第 22 条より、一般社団法人日本看護学教育学会 2022 年度定時評議員会が成立することが宣言された。

なお、議事に先立ち、本定時評議員会は現地出席及び WEB 会議システムを用いて開催することを宣言し、WEB 会議システムによる出席者の音声は即時に他の出席者に伝達され、出席者が一堂に会するのと同等に適時適確な意思表示が相互にできる状態になっていることを確認した。

II. 理事長挨拶

大島弓子理事長より挨拶があった。

III. 議長、書記、議事録確認者兼議事録署名人の選出

議長は、定款第 23 条により大島弓子理事長が務めることが確認された。書記として、事務局（毎日学術フォーラム）の脇田史城氏の紹介があり、議事録確認者兼議事録署名人として林千冬評議員と江本リ

ナ評議員が推薦され、出席評議員の過半数（102名）の賛成により承認された。

IV. 報告事項

1. 2021年度理事会・評議員会報告

大島弓子理事長より、定時評議員会資料（p. 1～6）に基づき報告があった。

2. 2021年度庶務報告

白水眞理子理事より定時評議員会資料（p. 7）に基づき報告があった。

3. 2021年度（自2021年4月1日至2022年3月31日）事業報告

1) 第31回学術集会の開催

大島弓子理事長より定時評議員会資料（p. 8）に基づき報告があった。

2) 学会誌の発行

小山田恭子理事より定時評議員会資料（p. 8～9）に基づき報告があった。

3) 研究の推進・研究の助成

本庄恵子理事/小松万喜子理事より定時評議員会資料（p. 9～10）に基づき報告があった。

4) 看護学教育の質の向上

嘉手苺英子理事より定時評議員会資料（p. 11～12）に基づき報告があった。

5) 看護学教育制度関連

小山眞理子理事より定時評議員会資料（p. 12～13）に基づき報告があった。

6) 広報・渉外・社会貢献

西村ユミ理事より定時評議員会資料（p. 13）に基づき報告があった。

7) 国内外の看護学教育に関する諸組織との連携

西村ユミ理事より定時評議員会資料（p. 14）に基づき報告があった。

8) 災害支援対策

正木治恵理事より定時評議員会資料（p. 14～15）に基づき報告があった。

9) 倫理に関する検討と研究倫理審査

欠席の吉沢豊予子理事に代わり小松万喜子理事より定時評議員会資料（p. 15）に基づき報告があった。

10) 定款・定款細則・規程等の見直し

安酸史子副理事長より定時評議員会資料 (p. 15) に基づき報告があった。

11) 30周年記念プロジェクト

大島弓子理事長より定時評議員会資料 (p. 16) に基づき報告があった。

12) 理事選挙

大島弓子理事長より定時評議員会資料 (p. 16) に基づき報告があった。

13) 第 32 回学術集会の準備

前川幸子第 32 回学術集会会長より以下の概要説明があった。

- ・ 8 月 6 日から 7 日に Web 開催。当日はリアルタイムでの開催、その後 1 か月のオンデマンド配信を予定。
- ・ 最優秀演題賞、優秀演題賞を設けた。7 月中旬頃にプログラム集を配布予定。

<意見交換>

質問：地元創生看護学に関して日本学術会議が 2019 年に出されている。これについて、日本看護学教育学会では何かしら対応・活動等はしているのか。(南裕子評議員)

回答：現時点で、学会としては何も活動を行っていない。課題として取り組んでいきたい。(大島理事長)

回答：30 周年記念誌に記載された理事座談会の場で、本件について言及しており、今後取り組んでいきたいと考えているので、是非ご一読いただきたい。(西村理事)

4. 2022 年度 (自 2022 年 4 月 1 日至 2023 年 3 月 31 日) 事業計画

大島弓子理事長より定時評議員会資料 (p. 17~19) に基づき報告があった。

5. 2022 年度 (自 2022 年 4 月 1 日至 2023 年 3 月 31 日) 予算

北素子理事より定時評議員会資料 (p. 20~21) に基づき以下の報告があった。

- ・ 収益の部について、会費を 29,925,000 円 (正会員 4,500 名、納入率を 95%と見積もり)、入会金は 200 名分 (600,000 円)、学術集会の収益は第 32 回学術集会 17,574,000 円で計上し、当年度収益が 51,495,100 円となり、前年度繰越正味財産額 116,892,255 円と合わせ、168,387,355 円となっている。
- ・ 費用の部について、一般事業費の合計は、27,457,000 円で前年度比 4,339,000 円の増額、学術集会事業費は 17,574,000 円で前年度比 1,531,000 円の増額、事務費は 19,728,000 円で前年度比 1,215,000 円の増額となり、費用の合計は 64,759,000 円、支出の差額増減額は 13,263,900 円の赤字となり、次年度繰越正味財産額が 103,628,355 円という予算とした。

6. 学会誌冊子体の有料化の時期, その金額

小山田理事より定時評議員会資料（p. 22～25）に基づき報告された。

<意見交換>

質問：このような重要な議題は、本来報告事項ではなく審議事項とし、社員の意見を求めてから進めるべきものではないか。また、予算案についても同様に評議員会での審議を経るべきではないか。（南裕子氏）

回答：2021年度評議員会で学会誌のオンライン化について審議を行い、社員の承認を経て進めた。その前後においても、オンライン化については理事会でも慎重な検討過程を経ており、そのような経緯で報告事項としていることをご理解いただきたい。また、予算に関するご意見については今後検討する。（大島理事長）

V. 審議事項

1. 2021年度（自2021年4月1日至2022年3月31日）決算について

北素子理事より定時評議員会資料（p. 26～30. 2021年度決算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書））に基づき以下の説明があった。

- ・収益の部について、当年度収益の合計は50,541,227円で補正予算額よりも1,052,773円の増額となった。前年度繰越正味財産額の113,903,924円を合わせ、全体の収入合計は164,445,151円である。
- ・費用の部について、合計は47,552,896円、当年度収支差額増減額は2,988,331円であり、次年度への繰越正味財産額は116,892,255円である。一般事業費の執行率は75.6%となり、前年度の70.6%、前々年度の73.3%に引き続き、高い執行率を維持した。
- ・定時評議員会資料のp. 28～33は法人の会計に従って整理したもので、p. 28は貸借対照表で、資産、負債、純資産の状態を表している。p. 29～30は正味財産額、正味財産増減計算書となっており、法人の会計に従ったものである。p. 31～32は決算報告の各事業の費用の内訳詳細となっている。p. 33は重要な固定資産の明細を記している。

2. 2021年度監査報告

田村やよひ監事より定時評議員会資料（p. 34）に基づき、2021年度の監査結果が説明された。また、定時評議員会資料（p. 35）に基づき、監事意見が述べられた。

・監事は、理事および使用人等と意思疎通を図り、理事会その他の重要な会議に出席し、必要に応じて説明を求め、業務及び財産の状況を調査した。監査は2021年4月24日に行い、その結果、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示し、財務諸表は法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適法かつ適正に表示していることを認めた。

→上記審議事項1, 2の報告説明を受け、議長は2021年度の決算書類及び監査報告の承認を議場に諮ったところ、特段の異議はなく、出席評議員の過半数（102名）の賛成により承認された。

3. 定款の改正について

安酸史子副理事長より定時評議員会資料（p. 36）に基づき、定款の改正案が説明された。

→上記審議事項について特段の異議はなく、定款の改定案については、総評議員の半数以上であって、総評議員の議決権の3分の2以上（102名）の賛成により承認され、以下のとおり改正された。

（主たる事務所）

改正前：第2条 本法人は、主たる事務所を、東京都千代田区一ツ橋一丁目1番1号パレスサイドビル9階株式会社毎日学術フォーラム内に置く。

改正後：第2条 本法人は、主たる事務所を、東京都千代田区内に置く。

（正会員の権利、権限、法人に対する権利の行使等）

改正前：第9条 正会員は、会員総会に出席し、理事又は監事に対し意見を述べ、本法人の運営等に関して説明を求めることができる。

2 正会員は、学術集会に参加し、学会誌に投稿し、また学会誌等の本法人が発行する機関誌の配布を受けることができる。

改正後：第9条 正会員は、会員総会に出席し、理事又は監事に対し意見を述べ、本法人の運営等に関して説明を求めることができる。

2 正会員は、学術集会に参加し、学会誌に投稿し、また学会誌等の配布を受けることができる。

4. 理事選挙結果報告及び理事の選任について

泊祐子選挙管理委員長より、本定時評議員会の終結をもって、理事の全員が任期満了となるので、理事の改選を行う必要があり、定款・定款施行細則・評議員及び役員選挙・選挙管理委員会規程の規定に基づき理事選挙が行われた旨が報告され、定時評議員会資料（p.37）に基づき、以下の説明がされた。

1) 2022年度からの新理事の承認

理事選挙の結果、以下の12名が次期理事候補者に選出された。そのうち、荒木田美香子氏（川崎市立看護大学看護学部）、池西静江氏（Office Kyo-Shien）、井上智子氏（国際医療福祉大学）、松谷（前川）幸子氏（甲南女子大学看護リハビリテーション学部）が新任である。

以上の選挙結果の報告を踏まえ、大島弓子理事長は以下の12名の新理事選任議案を発議し、その承認を議場に諮った。

→質疑応答は特になく、出席評議員の過半数（102名）の賛成により承認された。

選挙による選出の新理事：荒木田美香子、池西静江、井上智子、大島弓子、小山田恭子、小山真理子、白水真理子、本庄恵子、松谷（前川）幸子、正木治恵、安酸史子、吉沢豊予子（五十音順）

なお、被選任者は席上において即時その就任を承諾した。

2) 指名理事の承認

2022年度新理事の互選により新理事長は大島弓子新理事となったことが報告され、新理事長から、前議案で承認された選挙理事に加え、指名理事として村中陽子氏（秀明大学）、藤井徹也氏（豊橋創造

大学)を推薦することが提案されたため、その承認が大島弓子理事長より議場に諮られた。

→質疑応答は特になく、出席評議員の過半数(102名)の賛成により承認された。

新理事長の指名による新理事：村中陽子、藤井徹也

なお、被選任者は席上において即時その就任を承諾した。

上記第4号議案の承認により、今後は以下の14名の理事体制となることが確認された。

2022年度からの新理事(14名)：

荒木田美香子(新任)、池西静江(新任)、井上智子(新任)、大島弓子、小山田恭子、小山真理子、白水真理子、藤井徹也、本庄恵子、松谷(前川)幸子(新任)、村中陽子、正木治恵、安酸史子、吉沢豊予子

5. 名誉会員の推薦について

大島弓子理事長より定時評議員会資料(p.39~40)に基づき、高橋照子氏、川嶋みどり氏の2名が名誉会員に推薦された。

→質疑応答は特になく、出席評議員の過半数(102名)の賛成により承認された。

6. 第34回学術集会会長について

大島弓子理事長より定時評議員会資料(p.41)に基づき説明された。

→出席評議員の過半数(102名)の賛成により承認され、第34回学術集会会長は北素子氏(東京慈恵会医科大学)に決定した。

VI. その他

1. 第32回学術集会会長挨拶

前川幸子第32回学術集会会長から、挨拶があった。

2. 第33回学術集会会長挨拶

藤野ユリ子第33回学術集会会長から、挨拶があった。

3. 30周年記念誌に関する報告

30周年記念事業プロジェクトリーダーである安酸史子副理事長、記念誌編纂責任者である小松万喜子理事より、30周年記念誌に関する報告がなされた。

・記念誌の構成は、Ⅰ. 30周年記念事業、Ⅱ. 日本看護学教育学会30年のあゆみ、Ⅲ. 日本看護学教育学会設立のあゆみ、Ⅳ. 看護学教育の変遷、Ⅴ. これからの看護学教育で内容は以下の通り。

①初代理事長の功績および歴代理事長の寄稿

②2021 年度理事・監事による座談会

③30 周年記念事業として、メリアム先生からの特別寄稿や第 31 回学術集会でのシンポジウム

④本学会の活動の変遷

⑤歴代の学術集会

⑥学会設立までの同窓会、研究会のあゆみと活動

また、記念誌編纂に関わった委員を代表し、滝内隆子氏、佐々木真紀子氏から挨拶がなされた。

予定の議事は以上で終了。

VII. 閉会

大島弓子理事長より、以上をもって定時評議員会の議案審議が終了したことが宣言され、WEB 会議システムを利用した本定時評議員会は通信が切断されることもなく、終始異常なく、閉会となった。

上記決議を明確にするため、この議事録を作成し、定款第 25 条に基づき、議長兼議事録作成者及び本定時総会において選任された議事録確認者兼議事録署名人が次に記名押印する。

2022 年 6 月 19 日

一般社団法人 日本看護学教育学会 定時評議員会

議事録作成者：議長（理事長） 大島弓子 印

議事録確認者兼議事録署名人（評議員） 江本リナ 印

議事録確認者兼議事録署名人（評議員） 林千冬 印

書記：脇田史城 印